

教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒



令和7年度の重点方針

(1) 学力向上 令和6年度江戸川区教育課題実践推進校での研究の継続

未来を主体的に生き抜くために～自ら進んでよく学ぶ生徒の育成を目指して～

- ① 学びの主体性を引き出す工夫「令和の日本型学校教育」の推進
 - ・教員は、生徒一人ひとりの主体的・対話的で深い学びを最大限に引き出しながら、支援し伴走する「ファシリテーター」となる。
 - ・全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ② 自律した学習者の育成 指導と評価の一体化
 - ・ルーブリック評価による学習のねらいや評価項目の提示と評価の工夫
 - ・単元テストの実施
- ③ ICT活用の推進 授業支援ソフト「ミライシード」の積極的活用
- ④ PDCAサイクルによる自己管理能力を育成する自己管理ノート(Foresight 手帳)
- ⑤ 「書くこと」に対する苦手意識の緩和

(2) 生徒に寄り添う指導の推進

- ① 共生社会の実現を目指した学びのユニバーサルデザインの推進
- ② 多様性社会を踏まえ、過度の同等同質思考から抜け出す寛容さの涵養
- ③ いじめ・不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進
- ④ 不登校対応の推進 「エンカレッジルーム」の充実

令和7年度の重点方策

- 誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン
- 指導と評価の一体化（ルーブリック評価、授業評価アンケートなど）
- 「めあて、何のために学ぶのか」など学習目標・内容・評価項目等の明示
- 問題解決学習・探究的な学習など創意工夫した授業の展開、話し合い活動などの協働的な学びや自由進度学習など個別最適な学びの実践
- 積極的なミライシードやTeamsなど授業でのICT(一人一台端末)の活用
- 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善の推進
- 数学科の少人数・習熟度別授業の充実
- ALTを積極的に活用した英語科授業の推進（English Room）
- 自己管理ノートの活用による家庭学習習慣の定着、「家庭学習のすすめ」の配布、電子ドリル(ドリルパーク)の活用、放課後補習教室EDOスク
- 音楽、美術、技術・家庭の学習指導を通して芸術の表現や鑑賞、ものづくり体験を通し創造力や感性を磨き、創意工夫し自己の表現力を高め豊かな情操を養う。
- 保健体育科の男女共習授業では健康に関心をもち運動に親しみ体力向上を図る。
- 国語、数学、英語等で80%以上の正答率を目標としたコンテストの実施
- 道徳教育推進教師を中心に、教員がローテーションで実施する「考える道徳」「議論する道徳」授業の推進
- はるえアクション・スローガンを踏まえ、自ら問いを見いだし自分で課題を立て探究的に取り組む「個人探究テーマ」による総合的な学習の時間での探究的な活動の推進
- 探究的な学習活動を中心とした読書科の推進

はるえアクション・スローガン

【は】っけん(発見)・気付く

- ① 自己理解…自分を見つめ強みや弱みを把握し、未来に向け何を大切に、どのように行動するか自己基盤(自分軸)を形成する。
- ② クリティカルシンキングと課題発見…「正解」がないことを踏まえ物事や情報を多角的・論理的・客観的・批判的に分析・検討・判断する力を育み、課題を発見し解決策を考える。
- ③ 探究…課題解決に向け「学ぶ意義」を感じ、設定した目標やテーマを探究し、主体的に学ぶ楽しさやできる喜びを感じる。

【ル】ートを考えつながる

- ① 「なりたい自分」につながるために、新しい視点や知識を得ながら自分を成長させ、変容させるアクションを起こす。
- ② 自分の夢・目標は何か？自分で考えて、決めて、行動する。トライ&エラーを繰り返し、あきらめずにポジティブに挑戦する。
- ③ 目標達成に向けPDCAサイクルで自己調整・自己管理しながら、自学自習していく。

【え】がお(笑顔)を創り出す

- ① 自分や他者の幸せ(ウェル・ビーイング)を常に考え、互いに助け合えあえる思いやりと優しさを持ち、誰もが幸せに生きることができる多様性共生社会を目指す。
- ② 積極的にボランティア活動へ参加する。

- 責任ある自由を踏まえた特別活動・学級活動・生徒会活動
- 学校行事や学年行事では、コミュニケーション能力や調整力を育み、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、よりよい集団や社会の形成者に育てる。
- こども基本法、生徒指導提要に基づいた発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導など生徒に寄り添う指導や支援の推進
- いじめの根絶を目指す教育相談体制
- 教育支援委員会を中心とした特別支援教室やエンカレッジルームの充実(やむを得ず学校に登校できない生徒や特別な支援や配慮を要する生徒に応じた適切な支援の実施)
- 学びのユニバーサルデザインの推進
- 安全教育や防災教育の推進
- キャリア教育(主体的な進路選択と自己実現に向けた生徒支援)
- 9年間の子供の成長を見通した小中連携教育の充実
- よりよい共生社会の実現をめざした学年ごとの人権教室、税理士による租税教室、江戸川区選挙管理委員会と連携した生徒会役員選挙、命の支援係によるSOSの出し方教育教室など生徒への豊かな学びの場の提供
- ボランティアTシャツによる生徒の地域行事への積極的な参加
- 部活動ガイドラインを遵守し生徒の特性や個性を伸ばさせる部活動
- 学校ホームページやTetoruなどによる積極的な情報発信
- 学校関係者評価を実施し、保護者や地域の要望に応える学校づくり
- 全ての人のウェルビーイングを目指した教育活動の推進

目指す生徒の姿

- 「自ら進んでよく学ぶ生徒」の育成
 - 生徒が各教科の見方・考え方を働かせ、興味・関心・探求心をもって授業に臨むようにICTを活用し、学ぶ喜びや楽しさを実感させ、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を推進し、基礎学力の定着と確かな学力の向上を図る。
 - 生徒自らが課題を発見するとともに、主体的にその課題や問題を解決していく力を育成する。周囲とともに考えたり、発表したり、疑問や意見を話し合う授業を行う。
 - 先を見通して行動できる自己管理能力の習得を目指し、自己管理ノート「Foresight 手帳」を活用しながら、生徒自身が目標に向かって自分で考えた計画を実行し、Try & Error 成功・失敗体験を得ながらPDCAサイクルで自己調整しながら自己学習力を高め、学習習慣の定着を図る。
- 「協力して働く生徒」の育成
 - 学級活動、学校行事に加え、地域の方と生徒が直接つながるボランティア活動を通して、生徒の自主性や協調性を育み自己有用感・自己肯定感を高め、地域社会に貢献できる意欲と態度を育む。
- 「規律を守り、責任を重んずる生徒」の育成
 - 「責任ある自由」の下、生徒自らが自分で考え、その場の状況に臨機応変に対応し、自らの行動を適切に律し、その責任を果たせるように、学校の教育活動全体で自主・自律の精神や社会生活で必要となる社会的資質・能力を育成する。
- 「心身ともに健康で、思いやりのある生徒」の育成
 - 基本的な生活習慣の確立や体育・食育・保健が一体となって健康教育を推進していく。「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」の実現に向けて、教育活動全般を通し、人権尊重の精神と思いやりの心、豊かな心と感性を育成する。

目指す学校像

「未来を主体的に生き抜く力を育む学校」

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育を目指し、10年後、20年後の『なりたい自分』を思い描きながら未来をデザインし、高き理想や自己目標を実現させるため「頑張るときはいつも今」と自らを鼓舞し、未来を主体的に生き抜く力を育成します。そのため、生徒一人ひとりの自己理解力(自分のよさや可能性に気付かせる)、自己管理能力(自分の課題を見つけ、自分で解決策を考え、目標管理させる)、自己学習力(自ら学び、行動できる)を育成します。